

●症状

妊娠希望

●症状所見

(初診 3 月某日) 前年に結婚し、年齢的にも早々の受胎を希望してタイミング法を続けていたが授からず、今年に入って 2 度人工授精を行った。夫婦共に病気や生殖機能に異常はない。

●治療の内容と経過

初診時にお話を伺うと、乳腺腺腫や小さい子宮筋腫があるが妊娠に支障があるほどではなく、夫も特に異常がないとのことだった。専門の漢方薬局で調合された煎じ薬を飲んでいる。仕事でのストレスが多く生活時間が不規則になりがちで肩が凝り、睡眠状況もあまり良くなかった。その他、舌の所見などからも気の滞りや全身の血流の悪さが見られたため、手足や背中の経穴(ツボ)に接触鍼(鍼を皮膚上に貼る方法)を行い気血の巡りを整えるよう施術した。

4 診; 初診後 1~2 週毎に来院して頂いた。季節的に気温変動が激しく、施術の翌日に気温が高くなると頭痛が起こっていたため、3 診では刺激を弱めにし、かつ積極的に頸肩周囲を緩めたところ、翌日の頭痛は起こらなかった。同様に手足や背中に接触鍼を行い、足には施灸した。

8 診; 体調は良く基礎体温も 2 相を保っている。周期にあわせて人工授精を 3 回行ったが受胎せず、次回から体外受精に切り替えるとのこと。これまでと同様に気血の巡りを整えるよう経穴(ツボ)を選び施術した。また足と腰部に施灸した。以後、採卵・移植の周期にあわせて施術した。夏期は身体に熱がこもっている様子がみられたり、風邪をひき発熱したことなどで身体の消耗が見られた。そのため気血水のバランスを整え身体全体の調子を整えることを主眼に施術を進めていった。

16 診; 来院 10 日ほど前に受精卵移植し前日に仮判定があった。一応妊娠反応陽性だがホルモン値は低いとのこと。それまでと同様に手足や背部に接触鍼を行い、下腹部に施灸した。

17 診; 前回の移植は成功しなかったため次回に向けて体調を整えることとした。冬期に入り身体に熱がこもるような様子もなくなったため、自宅でも施灸して頂くことにした。

22 診; 10 日前に受精卵移植を行い、今回は妊娠判定陽性となった。自宅施灸は休止して頂き、気血の巡りを整えるよう経穴(ツボ)を選び接触鍼を行った。

以後、検診にて妊娠 5 週目で胎嚢確認、7 週目で心拍確認に至り体調も安定している様子。

●まとめ

初診時は自覚症状も特になく健康上問題ない様子でしたが、舌をはじめとした身体所見や色々とお話を伺うなかで気の巡りや血流の滞りが考えられ、まずは全身の巡りの調整を行うことを主眼に施術を進めていきました。

体外受精を行っても、年齢や移植の成功率、治療に掛かる費用など、様々な不安をお持ちだったと思います。それらの不安や仕事上でのストレスなどを出来るだけ解消し精神的に落ち着くようツボを選び、慢性的な肩凝りや腰痛への対処もしていきました。また、鍼灸治療と同時に身体に合うよう調合された漢方薬を服用していたことにより、全身の状態が

整いやすくなり、受胎につながったのではないかと考えられます。

今後は妊娠中のマイナートラブルへの対応や安産に向けての身体作りを目的に施術を継続していく予定です。